

第6章 地域別整備構想

6-1 地域別整備構想の位置づけ

本章では地域別整備構想に関して市内を8つの地域に区分し、それぞれの地域特性や課題を整理しています。

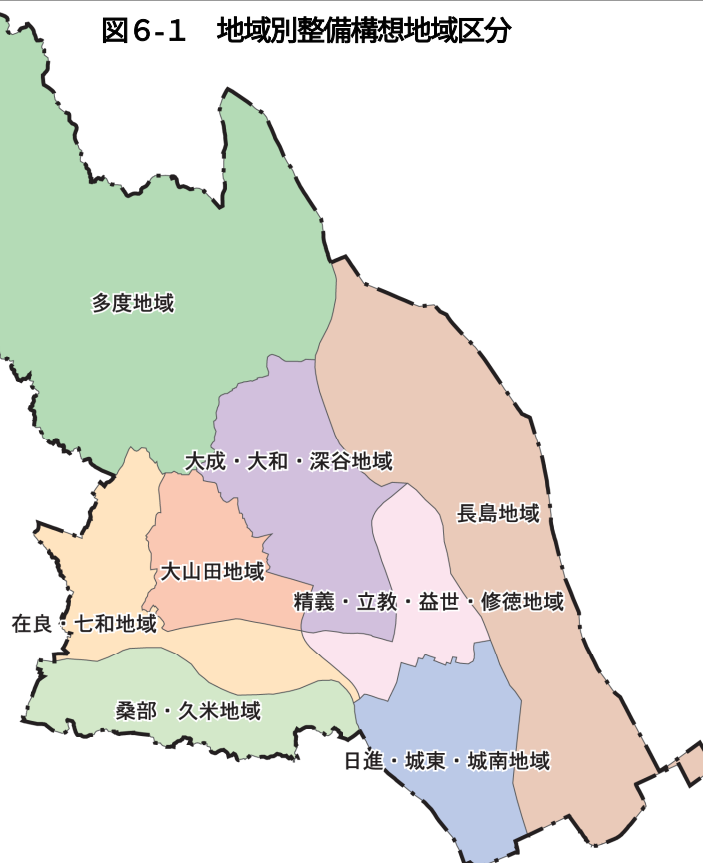
地域別整備構想は、地域住民にとって、住みやすく愛着を感じることができるまちづくりを推進することをめざすものであり、このためには、行政による都市施設の整備とあわせて身近な生活環境の改善が重要な要素になります。この身近な生活環境改善は、行政の力だけで実施できるものではなく、地域住民の理解と協力はもちろん、さらに地域住民の積極的な参加と主体的な取組みが不可欠となります。

そのため地域別整備構想の策定にあたっては、「（仮称）まちづくり協議会」を設立し、地域住民が主体となったまちづくりの気運の向上を図りながら、地域住民が望む地域づくりの方向と整備内容を検討していくことが必要です。

今後、各地域の「（仮称）まちづくり協議会」とともに、「6-2 各地域の概要」で示す(1)地域の概況、(2)地域の現状と課題を踏まえ、「第3章 都市整備構想」「第4章 土地利用の方針」「第5章 まちづくりの方針」と整合を図りつつ「地域別整備構想」を策定するものとします。なお、（仮称）まちづくり協議会の単位は小学校区等を想定していることから、地域別整備構想は、各（仮称）まちづくり協議会の区域ごとに策定するものとします。

地域別整備構想の内容（例）：地域の将来像、まちづくりの目標、まちづくりの方針（土地利用・市街地整備の方針・交通施設整備の方針・公園緑地整備の方針・都市環境整備の方針・地域の魅力形成の方針）、まちづくり方針図

図6-1 地域別整備構想地域区分



<「（仮称）まちづくり協議会」の概要>

※『新しい地域コミュニティ組織「（仮称）まちづくり協議会」設立ハンドブック[暫定版]』

（桑名市 2018 年 11 月発行）より抜粋

1. 新しい地域コミュニティの仕組み

地域では、自治会をはじめ、多くの団体の活動により、暮らしの基盤となる地域を守り、支えています。その一方で、少子高齢化の進展や価値観、生活スタイルの多様化を背景に、地域への関心の希薄化、地域活動の担い手不足などが大きな課題として指摘されている現状もあります。

社会環境が大きく変わる中で、今後、さらに多様化、複雑化していく地域課題に対応するためには、地域の団体の連携を強め、多くの地域の皆さんが話し合っ、「地域のことは地域が決める・地域で取組む」という新たな仕組みが必要ではないかと考えています。

「地域のことは地域が決める・地域で取組む」という新たな仕組みの主体となるのが、（仮称）まちづくり協議会です。

（仮称）まちづくり協議会とは？

範囲：小学校区と同等と認められる区域

構成：自治会をはじめとする地域の各種団体等で構成

活動内容：地域の皆さんが話し合っつくり上げる地域づくり計画に基づく活動

▼市が目指す姿『市民の個性が活かせる地域コミュニティ』

自治会をはじめとした地域の各種団体等がさらに強くつながり、（仮称）まちづくり協議会という組織を形成し、地域の一人ひとりの力を集めて私たちの“まち”をより良くしていく姿を目指しています。

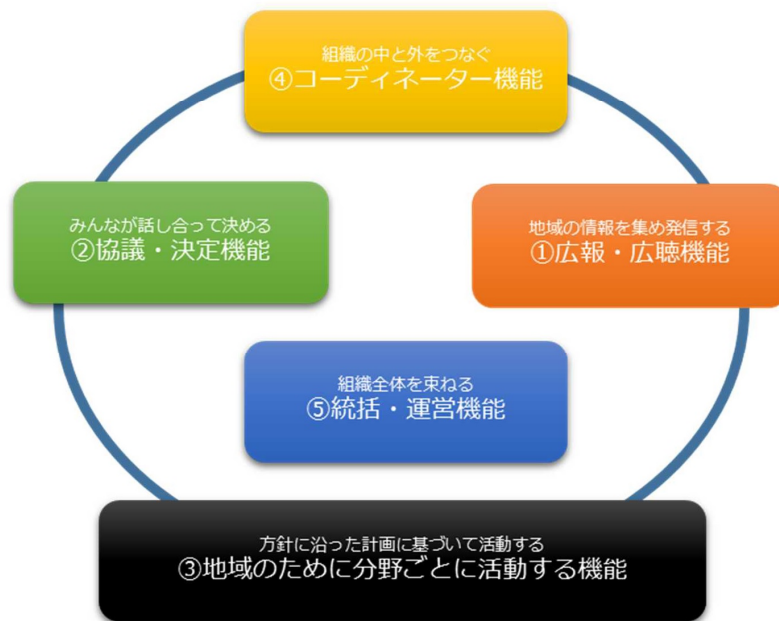
2. 市が目指す（仮称）まちづくり協議会の形態

多様化、複雑化していく地域課題に対し、地域が一丸となって持続可能な取組みを進めるためには、次の5つの機能を備えることが必要と考えています。

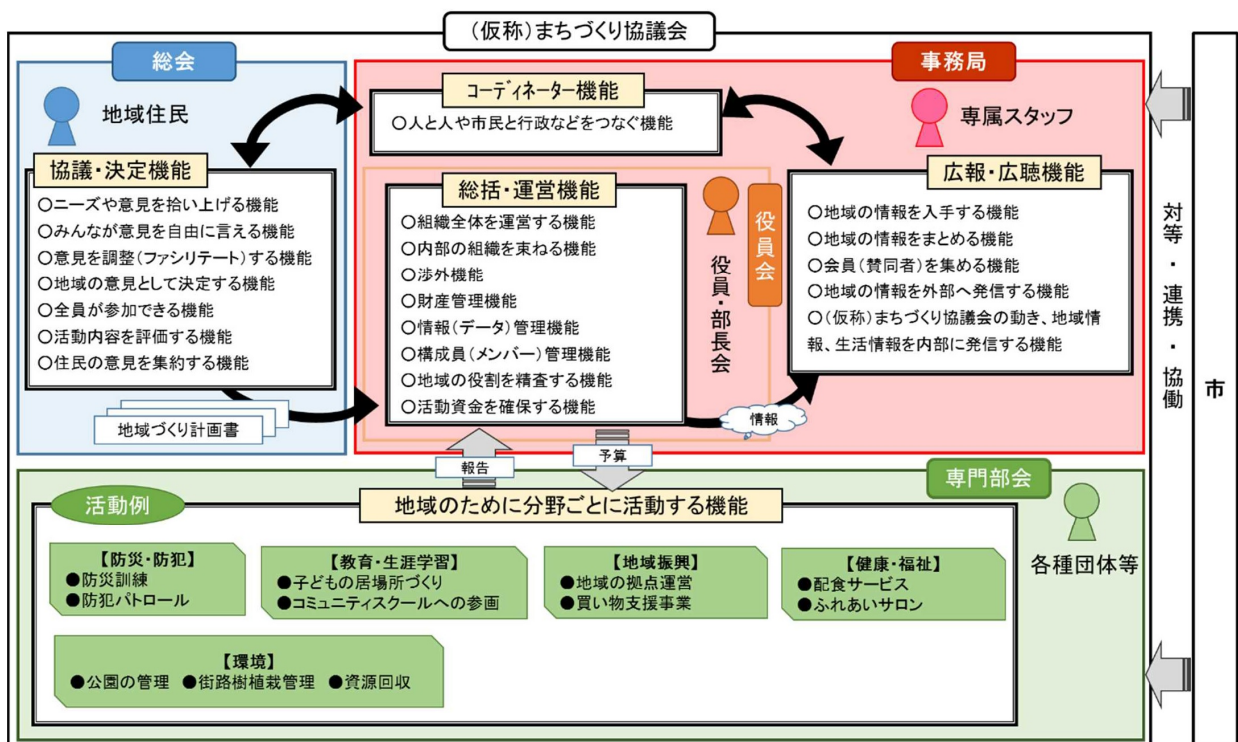
- ① 地域の情報を集め発信する。
- ② 活動の振り返りなどにより集めた情報に基づき、みんなが話し合っ方針を決める。
- ③ 方針に沿った計画に基づいて活動する。
- ④ 各種団体等の間や行政機関等との連絡調整など、組織の中と外をつなぐ。
- ⑤ 組織全体を束ねる。

地域課題に応じた事業に継続的に取組むことができる組織として、上記の機能を備えた（仮称）まちづくり協議会の設立に取り組んでいきます。

5つの機能



5つの機能を備えた（仮称）まちづくり協議会のイメージ



6-2 各地域の概要

① 日進・城東・城南地域

(1) 地域の概況

ア) 位置

- 桑名市の最も南の揖斐川と員弁川の河口部に位置し、東西を2つの川にはさまれた低地となっています。
- 桑名城の城下町地区の南にあたり、地域の北部は城下町地区の一角を占めています。



イ) 人口・世帯数・高齢化率

- 人口は16,560人で、市全体（142,274人／平成31年3月31日）の11.6%、世帯数は7,520世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の12.7%となっています。
- 65歳以上人口は4,413人、高齢化率は26.6%となっています。市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べるとわずかに高齢化率が高くなっています。

	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
日進	5,911	2,704	1,649	27.9
城東	2,017	979	681	33.8
城南	8,632	3,837	2,083	24.1
総計	16,560	7,520	4,413	26.6

平成31年3月31日現在

ウ) 土地利用

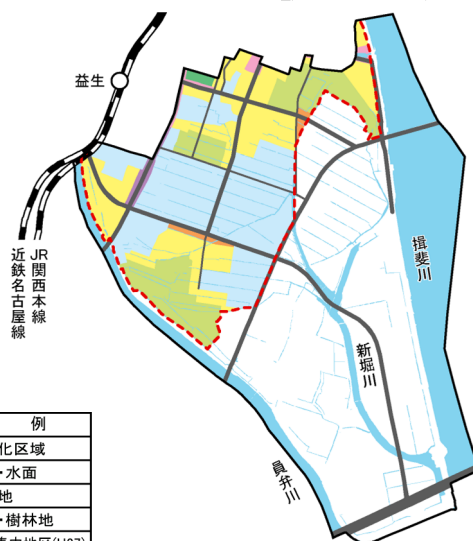
- 地域の北部は、中心市街地とつながる市街地が広がり、中部から南部にかけては農用地が広がっています。
- 北部の市街地部では、工業系用途地域の占める割合が高くなっています。

【土地利用現況図】



凡	例
市街化区域	
河川・水面	
農用地	
山林・樹林地	
人口集中地区(H27)	
鉄道	
主な道路	

【用途地域指定図】



凡	例
市街化区域	
河川・水面	
第一種低層住居専用地域	
第二種低層住居専用地域	
第一種中高層住居専用地域	
第二種中高層住居専用地域	
第一種住居地域	
第二種住居地域	
準住居地域	
近隣商業地域	
商業地域	
準工業地域	
工業地域	
工業専用地域	
主な道路	

(2) 地域の現状と課題

ア) 東海道の歴史・文化資源の活用

- 東海道沿いには、神社仏閣が数多くありますが、城下町地区との連続性に欠ける面があります。
- 町屋橋跡は、史跡案内看板の老朽化が進む一方、周囲の景観にマッチしないフェンスがある、トイレが無いなどの問題があり、公園としての機能を高める必要があります。
- 掛樋を通り伝馬公園につながる歩行者専用道路は、整備されているものの十分に活用されておらず、再整備が必要となっています。

イ) 交通安全対策

- 城南小学校周辺の道路は、通学路にもかかわらず、道路、歩道が狭いために危険であり、歩行者の安全対策が必要となっています。
- 〔都〕伊勢大橋小泉線は一部が未着手であることから、交通安全対策を兼ねて道路の整備が必要です。
- 国道1号の混雑を避ける車が住宅地の細街路に流入するために、通過交通対策が必要となっています。

ウ) 生活環境整備

- 住宅と工場の混在による住環境と生産環境問題、公共下水道整備の遅れ、公園の不足など生活環境を阻害する要因が見られることから改善が必要となっています。
- 南部地区には、公園がないことから、伝馬公園に利用者が集中し公園周辺の路上駐車が増えています。
- 路線バスの便数が少なく、宅地化の進展に公共交通が不十分な状況にあります。今後の高齢者の増加に対応した路線バスの充実が必要となっています。

エ) 湾岸桑名インターチェンジ周辺整備

- 国道1号、国道23号、国道258号、伊勢湾岸道路（新名神高速道路）など広域アクセスが充実しています。
- 伊勢湾岸道路（新名神高速道路）湾岸桑名インターチェンジからの眺望は優れているものの、桑名市の玄関口としては寂しいため、優れた立地条件を活用した整備が必要となっています。

② 精義・立教・益世・修徳地域

(1) 地域の概況

ア) 位置

○桑名市の中央部に位置し、桑名駅から城下町地区にかけての中心市街地地区から、北は揖斐川沿いにＪＲ線および近鉄線まで、西は〔都〕桑名中央東員線の南側沿いに国道258号までの地域にあたります。



イ) 人口・世帯数・高齢化率

○人口は21,790人で、市全体（142,274人／平成31年3月31日）の15.3%、世帯数は9,826世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の16.6%となります。

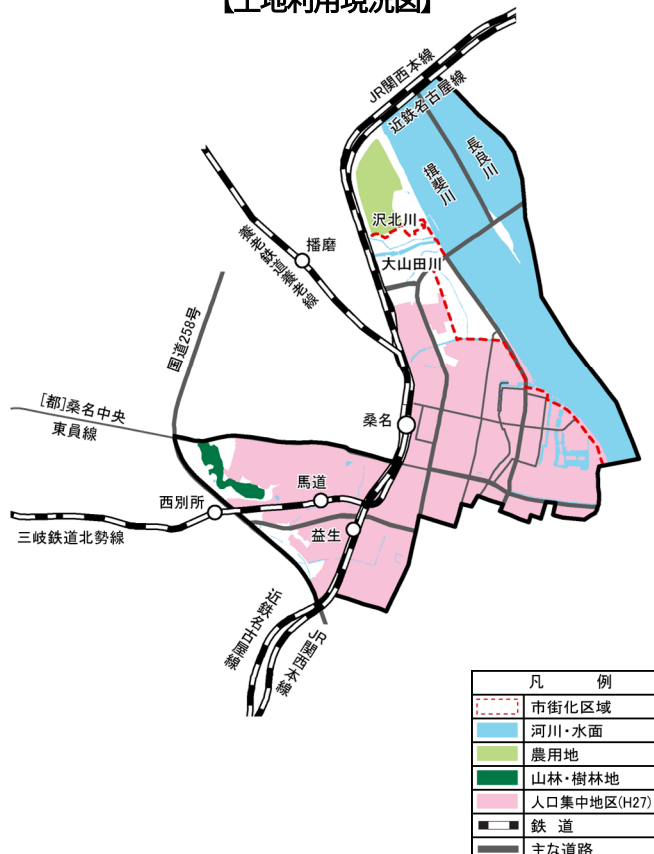
	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
精義	4,363	2,008	1,408	32.3
立教	3,537	1,629	1,256	35.5
益世	7,770	3,462	2,239	28.8
修徳	6,120	2,727	1,304	21.3
総計	21,790	9,826	6,207	28.5

平成31年3月31日現在

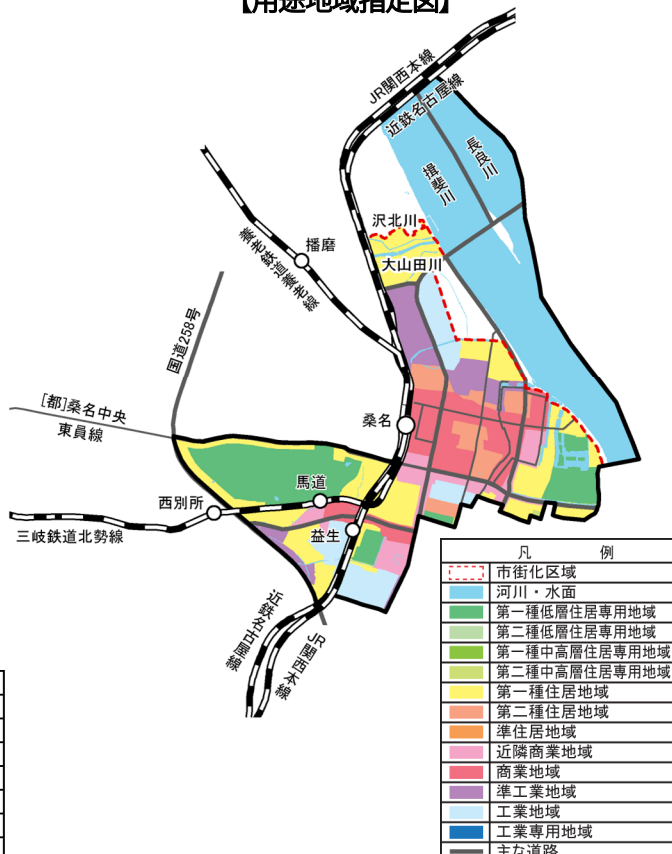
ウ) 土地利用

- 地域の中央部から西部にかけては、市街地が広がり、用途地域では中央部は商業系、西部は住居系の用途に指定されています。
- 地域の北部には、農用地があり、市街化調整区域に指定されています。

【土地利用現況図】



【用途地域指定図】



(2) 地域の現状と課題

ア) 中心市街地の活性化

- 再開発によりサンファールが整備されましたが、にぎわいを取り戻すには至っていません。また、桑栄メイト、一番街等の店舗の老朽化が進んでおり、駅前商業の活性化を図るうえで、建替え、再開発が必要となっています。
- 商業とあわせて、市民の生活サービス機能や市外からの来訪者をもてなすサービス機能の充実など、中心市街地の活性化が求められています。

イ) 歴史・文化資源の活用・保全

- 城下町地区には、住吉浦、七里の渡跡、六華苑・諸戸氏庭園、東海道、濃州道などの多くの歴史的・文化的資源が残されており、これらを保全するとともに観光資源としてさらに魅力アップを図る必要があります。
- 走井山周辺にも矢田城跡、諸戸水道遺構、有王塚などの多くの歴史的・文化的資源が残されているうえ、眺望も優れており、貴重な資源の保全と活用が求められています。
- また、地域には文学碑、町屋御用水などの資源も残されており、資源の持つ価値を理解するとともに、保全策を検討する必要があります。

ウ) 自然資源の保全・活用

- 市街地に近接して丘陵地の緑が残っており、市街地の良好な景観と生活環境を形成していますが、マンション開発等により損なわれる危険性があり、こうした緑や景観の保全方策を検討する必要があります。
- 揖斐川では堤防整備が進められており、員弁川（町屋川）とあわせた河川の自然環境の保全と活用が必要となっています。

エ) 交通安全対策

- 国道1号は歩道が狭かったり、車道と分離されていなかったりすることから、歩行者の安全性の確保が必要となっています。
- 市道寿安永線や修徳小学校周辺の道路には、国道1号、国道421号からの通過交通が入り、交通事故の危険性が高くなっています。

オ) 交通の分断・渋滞対策

- 鉄道により東西が分断され、踏み切りも段差があり、スムーズな横断が困難な状況です。
- 毎朝、駅周辺での送迎用の車による混雑や伊勢大橋付近の慢性的な渋滞など、円滑な交通を確保するための道路整備が必要となっています。

カ) 防犯・防災対策

- 街路灯が十分でなく暗い住宅地の道や暗い公園など、犯罪の危険性の高い箇所が見られます。
- 上流の住宅地開発などに伴い、大山田川の水害の危険性が心配されます。

キ) 高齢社会への対応

- 空き家や老朽住宅が増加しており、利便性を活かした住替えの促進策の検討が必要となっています。
- 高齢者の居場所の確保といきがいづくりの方策を検討する必要があります。

③ 大成・大和・深谷地域

(1) 地域の概況

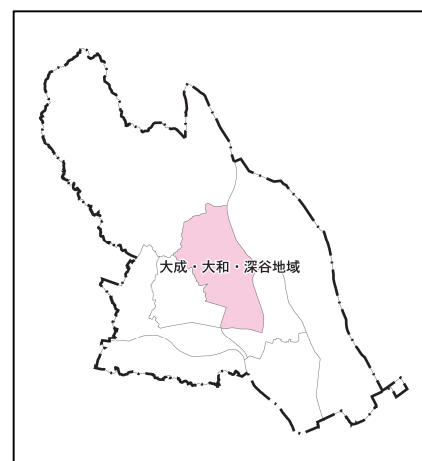
ア) 位置

○桑名市の中央部やや北側に位置し、桑名駅西地区から養老鉄道線に沿って多度地域に接する区域で、揖斐川をはさんで長島地域とも接しています。

イ) 人口・世帯数・高齢化率

○人口は16,390人で、市全体（142,274人／平成31年3月31日）の11.5%、世帯数は7,404世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の12.5%となっています。

○65歳以上人口は4,895人、高齢化率は29.9%となっており、市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べると高くなっています。



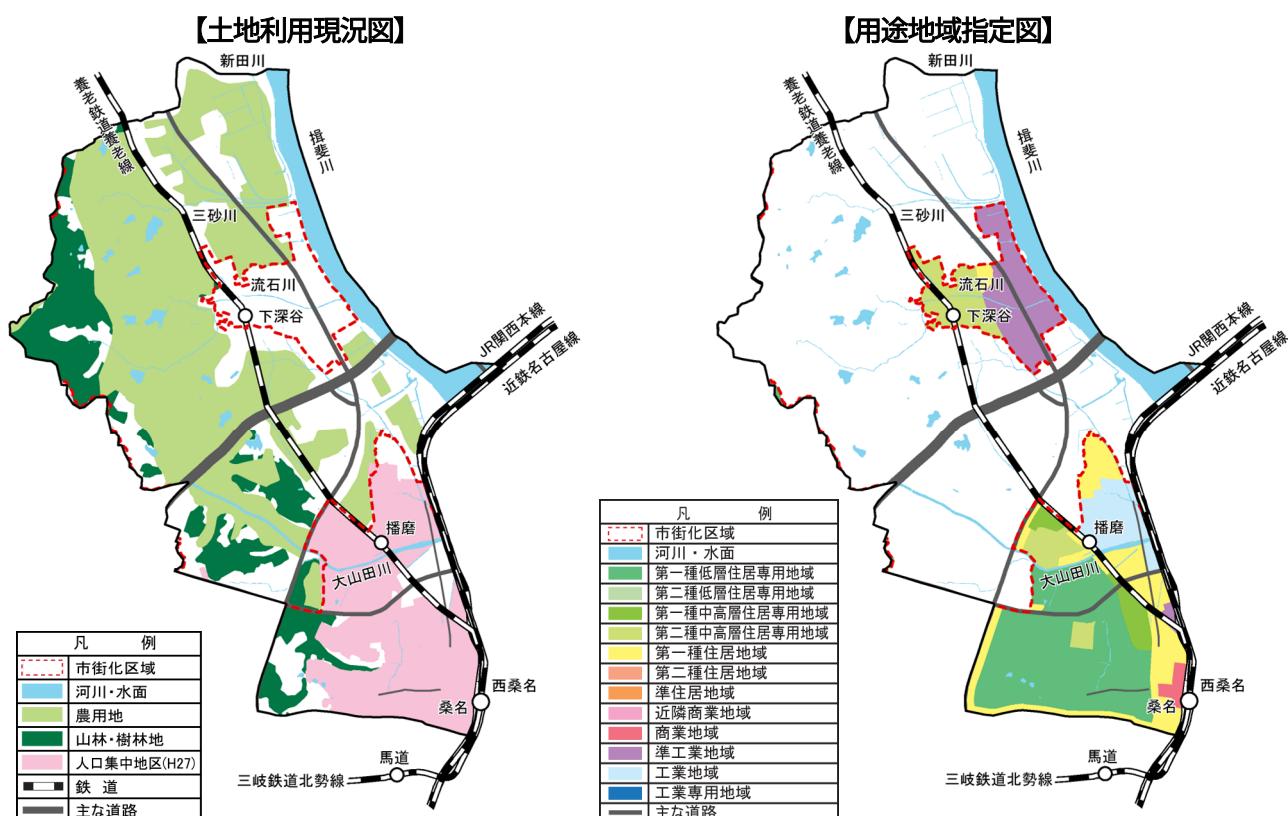
	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
大成	9,164	4,091	2,347	25.6
大和	2,826	1,289	916	32.4
深谷	4,400	2,024	1,632	37.1
総計	16,390	7,404	4,895	29.9

平成31年3月31日現在

ウ) 土地利用

○地域の北側の大半は、農用地となっており、西側に一部森林・樹林地があります。

○市街化区域における用途指定の状況は、全体的に住居系の用途が多いものの、一部は工業系の用途になっています。



(2) 地域の現状と課題

ア) 歴史・文化資源の保全

- 蛸塚縣神社の境内には古墳時代の遺跡があり、くすのきの大木や周辺のため池とあわせて安らぎのある魅力的な空間を形成しています。
- 桑名駅の西側一帯には、照源寺や大福田寺をはじめとする寺院や高塚山古墳など歴史的にも由緒ある資源が数多く存在しています。
- 堺城跡、北廻城跡、屋長島城跡、中江城跡など長島一向一揆の拠点となった城跡が点在しています。

イ) 自然環境・景観の保全

- 竹林の里山が多く、豊かな自然環境に恵まれた景観が残っています。特に、高塚山古墳から北別所の土佛山周辺にかけての丘陵部の緑地は豊かな居住環境を生み出しています。
- 揖斐川の河川敷にはヨシが生えており、これらを活用した景観形成とともに、河川敷で楽しめる空間整備が望まれます。
- 揖斐川や国道258号に沿って農地が保全され、ホタルの繁殖地も存在しますが、今後の田園景観・環境の維持が課題となっています。

ウ) 交通安全対策

- 東名阪自動車道や国道258号など、地域内には利便性の高い道路が通っています。一方で、播磨地区は道路が狭いうえに、桑名東インターチェンジを利用する通過交通が流入するため、交通事故の危険性が高くなっています。
- 本地域の一部では、狭い道路などが多いため、消防車などの緊急車両が入りにくい状況にあります。

エ) 交通体系の整備

- 鉄道により桑名駅の東西が分断されているため、東西を結ぶ道路や通路が必要となっています。
- 大山田地区と国道258号を結ぶ道路が不十分な状況にあります。
- 本地域と多度地域とを結ぶバス路線がないうえ、住宅地から桑名駅方面へのバス料金が料金設定になっています。

オ) 防災・防犯対策

- 近年、集中豪雨などにより一旦水が出やすくなっており、大山田川や三砂川の増水による水害が懸念されます。
- 高速道路のインターチェンジが近くにあるなど交通利便性が高いため、犯罪が発生しやすい環境になっており、犯罪に対する不安が高まっています。
- 桑名北高校への通学路は防犯灯等が少なく危険なため、防犯灯の設置が必要となっています。

カ) 生活基盤の整備

- 新西方地区は、緑が豊かで良好な住宅環境を形成しています。

- 新西方地区では桑名駅・名古屋駅へのバス路線、商業施設、医療機関が充実しており、快適性と利便性が高い住宅地を形成しています。
- 新西方地区の南側では、土地区画整理事業が進められ一体的な住宅地が形成されます。
- 下水道や街区公園など身近な公園、スポーツのできる施設の整備が遅れている地域もあり、生活環境の向上と水害危険性を低下させることが課題となっています。
- 鋳物など地場産業を支える中小規模の工場が多く、これらの支援が課題となっています。

キ) 大山田パーキングエリア周辺整備

- 大山田パーキングエリアでのスマートインターチェンジの整備を見据え、アクセス道路である[都]桑名北部東員線、[都]大山田播磨線の整備及び新たな産業集積拠点の形成に向けた土地利用を計画する必要があります。

④ 桑部・久米地域

(1) 地域の概況

ア) 位置

○本地域は市域の南西部に位置し、地域の北側には東西に員弁川が流れ、地域の南側の四日市市や朝日町との境界には丘陵部の樹林地が残る自然環境が豊かな地域となっています。

イ) 人口・世帯数・高齢化率

○人口は11,779人で、市全体の（142,274人／平成31年3月31日）の8.3%、世帯数は4,721世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の8.0%となっています。

○65歳以上人口は3,079人、高齢化率は26.1%となっており、市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べてわずかに高くなっています。

	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
桑部	5,047	2,043	1,520	30.1
久米	6,732	2,678	1,559	23.2
総計	11,779	4,721	3,079	26.1

平成31年3月31日現在

ウ) 土地利用

○地域の中央部に正和台、赤尾台の開発住宅地があり、その周りに桑部、能部、島田、志知などの既存集落地が点在し、これらの周囲を河川や丘陵地、農地が取り囲むように土地利用が形成されています。

○用途地域では多くが住居系の用途に指定されていますが、〔都〕桑部長深線（県道桑名大安線）の幹線道路沿いでは一部、工業系の用途が指定されています。

【土地利用現況図】



【用途地域指定図】



(2) 地域の現状と課題

ア) 安全・安心な交通対策・道路整備

- 員弁川に架かる橋が少ないなど南北道路が脆弱であることから、朝夕の通勤時における桑部橋や坂井橋周辺は交通渋滞が激しくなっています。そのため、〔都〕島田星川線や〔都〕桑部播磨線などの都市計画道路の早期整備を進めるとともに、交通渋滞等の原因となっている桑部橋周辺や〔都〕桑部長深線（県道桑名大安線）赤尾北交差点などに右折レーンや信号機の設置などの改善が求められています。
- 県道星川西別所線や市道桑部志知線は道路幅員が狭いにも関わらず、交通量が多いことや側溝に蓋が無いことから歩行者にとって危険であり、安全な歩道空間の確保が必要です。

イ) 豊かな自然環境・田園環境の保全と活用

- 地域南部の市境界部分には里山や竹林などの緑地が多く残っています。しかし管理が不十分であり、荒廃化が進んでいます。このようななか、地域住民が中心となって竹林の整備と竹炭や竹酢液の生産が行なわれています。このような竹林ボランティアをさらに育成しつつ、竹資源を活用し、子どもの自然体験の場の創出や住宅材の供給を図っていくなど、里山・竹林の管理とこれらの活用方を考えていくことが必要です。
- 平群池周辺や能部東谷地区などの水路にはホタルが生息しています。また、員弁川ではカワセミなどの野鳥の宝庫になっており、これらの貴重な生物の生息環境を保全していくことが求められます。
- 地域には多くの田畑が残っており、水稻をはじめ、野菜、菜の花などの栽培が行われています。しかし、担い手不足などから一部で休耕田が増えており、これらの遊休農地の有効活用を検討することが必要となっています。

ウ) 地域住民が憩え、楽しめる公園緑地等の整備と管理の充実

- 員弁川右岸の市道にはさわやかロード桑部として、花木（コスモス、菜の花、レンギョウ、ユキヤナギ、ヒラドツツジなど）を植栽した道づくりが行われています。また、員弁川の右岸の堤防の一部（西金井）には桜並木と遊歩道が整備されています。しかし、これらの遊歩道は草刈が不十分であり、夜間は犯罪等の危険も心配されています。さらに、員弁川においては、ところどころで利用者のポイ捨てなどによるごみ等が見られるため、多くの人が安心して快適に利用できるよう、マナーの向上を図る取り組みが必要です。
- 能部西徳寺跡地や能部神社等の遊休地を活用し、住民の憩いの場等になるような広場や集会所などの整備が求められています。

エ) 歴史・文化資源の保全と活用

- 地域には島田城跡、長谷神社、平群神社などの神社仏閣、『平家物語』に登場する景清の屋敷跡、また新田開発や城郭再建等で桑名藩の復興に大いに貢献した野村増右衛門の偉人を輩出するなど、歴史資源が豊富に残っています。
- 平群池周辺では「ヤマトタケル」にちなんだ伝説や昔話が伝えられています。

オ) 安全で快適な生活環境の整備

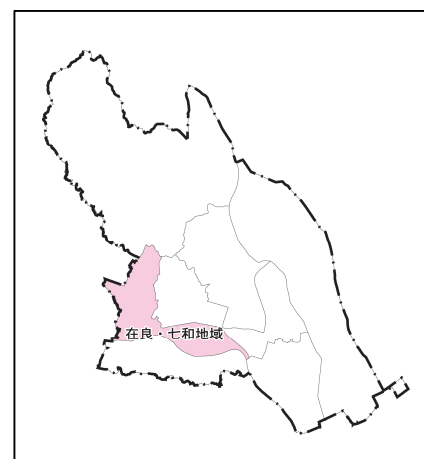
- 地域内には下水道未整備地域があり、河川の水質浄化を図るためにも整備推進が求められます。
- 古川は、かつては泳ぐことができる川でしたが、市街化が進んだことで、そこから流入する汚水で水質が悪化しています。また、古川に流入する水路（正和台等からの水路）が直線化されたことから、洪水時には氾濫の危険性があるため、護岸の改修や流入する水路の流路変更が必要となっています。
- 水害対策として設けられたかすみ堤、能部谷川堤などの堤防は管理が不十分であることから雑木化してきており、防犯上にも問題が生じています。

⑤ 在良・七和地域

(1) 地域の概況

ア) 位置

○本地域は市域の西部に位置し、東西を走る三岐鉄道北勢線や国道421号の沿線に市街地が広がっています。また地域の南側には員弁川が流れ、北側には丘陵部の樹林地が残るなど、自然環境が豊かな地域となっています。



イ) 人口・世帯数・高齢化率

○人口は15,114人で、市全体の（142,274人／平成31年3月31日）の10.6%、世帯数は6,512世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の11.0%となっています。

○65歳以上人口は4,587人、高齢化率は30.3%となっており、市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べて高齢化が進行しています。

	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
在良	8,250	3,564	2,748	33.3
七和	6,864	2,948	1,839	26.8
総計	15,114	6,512	4,587	30.3

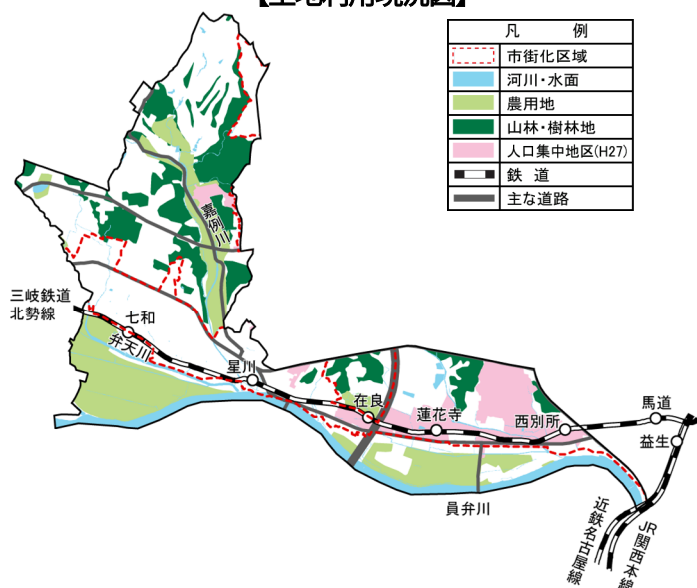
平成31年3月31日現在

ウ) 土地利用

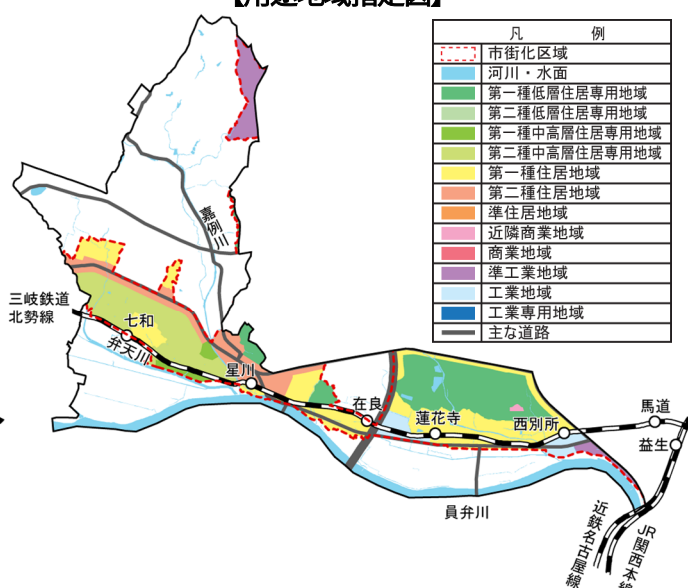
○地域の北東部に希望ヶ丘、蓮花寺の計画的な住宅地があり、三岐鉄道北勢線や県道星川西別所線沿いには住工が混在した地区や沿道利用型の商業施設が集積しています。また、南西部には自然発生的に市街化が進行した住宅地もあります。さらに、北部には丘陵部の樹林地が、南部には農地や河川が保全されています。

○用途地域では多くが住居系の用途が指定されていますが、県道星川西別所線沿いでは一部、工業系の用途が指定されています。

【土地利用現況図】



【用途地域指定図】



(2) 地域の現状と課題

ア) 安全・快適な道路・交通対策

- 地域内には三岐鉄道北勢線の5駅があり、地域住民の大切な公共交通機関となっています。また、東名阪自動車道の桑名インターチェンジもあり、交通の利便性が高い地域でもあります。しかし、朝夕の通勤時間帯などには、県道星川西別所線の坂井橋付近や〔都〕桑名員弁線（県道桑名東員線）のサンシパーク周辺では渋滞が発生しており、交通安全や住環境の面からも改善が求められます。
- 在良駅の北東側には、大規模な工場が立地していること、また南北方向の幹線道路が少ないことから、大型トラックなどが昼夜を問わず住宅団地内を出入りしており、通過交通による危険性や騒音・振動、路上駐車などが問題となっています。
- 県道星川西別所線の在良小学校南側の交差点は見通しが悪く、また沿線店舗からの出入りの車もあり、危険であることから交差点の改善が求められます。交差点には歩道橋が設置されていますが、この歩道橋にはスロープが設置されておらず、安全・安心に県道星川西別所線を横断するための横断歩道の設置が求められます。
- 住宅団地内には路上駐車が目立ち、安全性やマナーの向上が求められます。

イ) 安全・安心な生活環境対策

- 本地域は小規模な開発等により市街化が進行した区域と、既存の集落が混在しており、歩道が無い道路や狭い道路も多く、災害の危険性や消防、救急面からも解消が必要です。
- 嘉例川、弁天川などの河川が員弁川に合流する地域であり、また丘陵地から流れ出る雨水等により洪水時の水害の危険性が指摘されています。そのため、下水道および排水路の整備・管理の充実など、排水対策や治水対策の改善並びに下水道整備による生活環境の向上が求められています。
- 河川、竹林、ため池などにごみの不法投棄が見られることから、マナーの向上に向けた取組みが求められます。

ウ) 住民が憩う環境の整備・充実

- 子どもたちがのびのびとボール遊びや魚釣りなどができる公園等が少なく、利用者のニーズに応じた公園等の整備・充実が求められます。
- 神田池は堤に桜などが植えられており、四季折々の風情が美しいため池となっていますが、かつてため池で行われていた掻い掘りが行われなくなっているため、水質の悪化や雑草が生い茂るなど環境が悪化しています。また、安全性の面からため池への立ち入りが禁止され、住民との関わりがなくなっており、子どもからお年寄りまでが気軽に憩うことができる環境整備が求められます。

エ) 歴史・文化資源の保全と活用

- 地域には希少種が生息する自然豊かな環境、芳ヶ崎の市指定天然記念物のクロガネモチの大木、額田神社・安渡寺などの神社・仏閣があり、これらの資源を保全・活用し、地域の魅力の向上を図っていくことが求められます。

オ) 自然環境（竹林、河川）の保全・活用

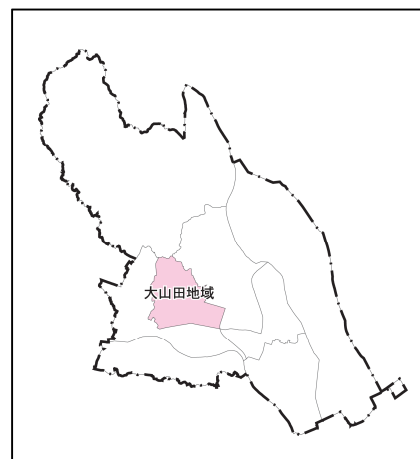
- 嘉例川の国道421号との交差点付近には、桜や水仙などが植栽され、きれいな河川景観が形成されています。また、この付近からの鈴鹿山脈の山並みの景観が美しく、今後もこれらの環境・景観を守り育てていくことが求められます。
- 嘉例川の上流部には、ヒメタイコウチ、ホトケドジョウなどの希少種が生息しており、地域で保全活動が行われています。しかし、蓮花寺川の上流などかつてヒメボタルの生息地があった場所が、住宅地開発などにより失われており、このような生物の生息環境の保全・再生が求められます。
- 地域内の竹林は放置され、荒廃化が進んでいる箇所も見られ、活用できるような仕組みが必要です。

⑥ 大山田地域

(1) 地域の概況

ア) 位置

- 桑名市の中心部からやや西よりに位置し、周囲を山林や田畑、竹林に囲まれた丘陵地となっています。
- 地域内を東名阪自動車道が縦断し、広域の交通アクセスに恵まれ、計画的な住宅開発が行われています。



イ) 人口・世帯数・高齢化率

- 人口は34,803人で、市全体（142,274人／平成31年3月31日）の24.5%、世帯数は13,125世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の22.2%となります。

- 65歳以上人口は6,318人、高齢化率は18.2%となっており、市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べると高齢化率が低くなっています。

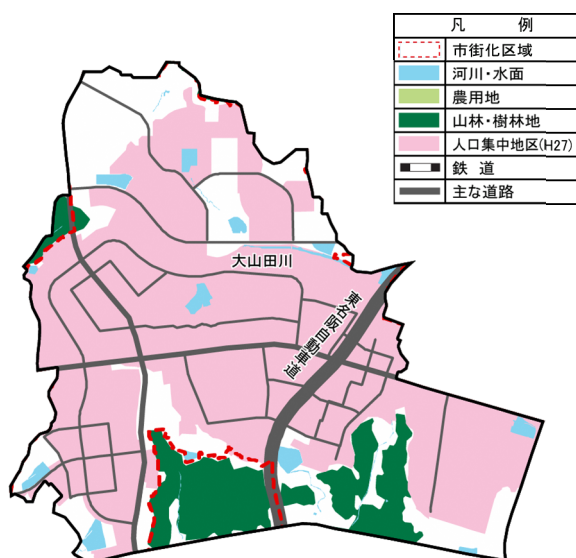
	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
星見ヶ丘	6,065	2,241	474	7.8
筒尾・陽だまりの丘	8,640	3,093	1,442	16.7
松ノ木	4,462	1,679	1,044	23.4
大山田	6,546	2,465	1,463	22.3
野田	2,385	1,097	797	33.4
藤が丘	3,009	1,131	653	21.7
新西方	3,696	1,419	445	12.0
総計	34,803	13,125	6,318	18.2

平成31年3月31日現在

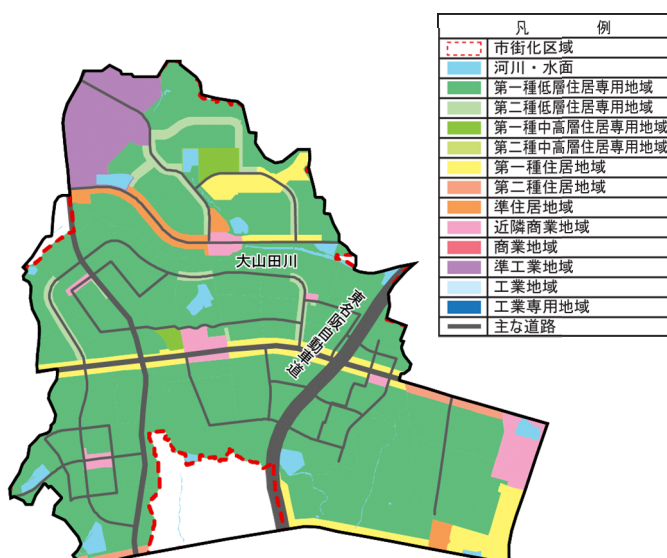
ウ) 土地利用

- 地域の中央部には市街地が広がり、南部の市街化調整区域に山林・樹林地が残っています。
- 用途地域では、住居系の用途が中心となり、幹線道路沿いに近隣商業地域も見られます。
- 北部は準工業地域に指定されています。

【土地利用現況図】



【用途地域指定図】



(2) 地域の現状と課題

ア) 安全・快適な道路・交通対策

- 人口増加に伴い地域内の交通量も増加しており、これらに対応するために、〔都〕大山田播磨線や〔都〕桑名北部東員線などの東西軸の強化が求められます。
- 幹線道路と住宅団地内との交差点における渋滞や、住宅団地内の通過交通の増加などから、交通安全や住環境の面から交通量の抑制と安全確保が求められます。
- 陽だまりの丘および星見ヶ丘では、バスの運行本数が少なく、利用しにくいサービス水準にあり、高齢化への対応や地域内の交通量抑制のためにもバス交通の充実が求められています。

イ) 安心・便利な生活環境対策

- 道路の老朽化により車道の路面にひび割れが生じていることから、適切な維持・補修が求められます。
- 既存の歩道や遊歩道の一部では、歩道のひび割れや隆起、段差などにより、歩行者や自転車や車椅子の安全な通行の妨げになっており改善が求められます。
- 地区市民センター、学校、病院（医院）などの都市機能がバランスよく配置されています。地域の人口増加や高齢化などに伴い、今後は近隣の商業機能の充実やコミュニティ施設、高齢者福祉施設などの整備が求められます。
- 住宅地に隣接する里山では、ごみの不法投棄が見られます。また、〔都〕桑名中央東員線（国道421号）沿いの採土場については安全に配慮した管理が求められています。

ウ) 公園緑地等の整備・充実

- 総合運動公園、播磨中央公園、藤が丘デザイン公園など、設備の充実した公園が整備されており、子どもの遊び場や家族連れの憩いの場として多くの市民に利用されています。
- 地域を取り囲むように田畑や竹林、大山田川など、豊かな自然環境が残っており、これらの保全および維持管理が求められます。
- 大山田川の河川整備が進み、今後は水質改善とともに遊歩道の有効活用を図り、親水性の高い河川環境を形成することが求められます。
- 幹線道路における街路樹の維持管理や屋外広告物規制などによる、良好なまち並みの形成に向けた取り組みが求められます。

エ) 防災・防犯対策

- 身近な場所に安全な避難場所を確保していくことが求められます。
- 近年では盗難事件が増加しており、地域の防犯力の強化が求められます。

オ) 誰もが安心できる環境の整備

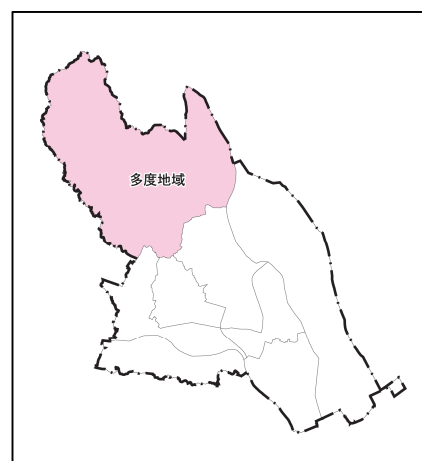
- 障害者の学習や就労等の社会参加の受け皿となる障害者のための施設等の充実や地域福祉の担い手の育成・確保が求められます。

⑦ 多度地域

(1) 地域の概況

ア) 位置

- 桑名市の北端にあり、養老山系を含む旧多度町域です。
- 地域の西側はいなべ市および東員町と接し、北側は岐阜県と接しています。



イ) 人口・世帯数・高齢化率

- 人口は10,940人で市全体（142,274人／平成31年3月31日）の7.7%、世帯数は4,100世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の6.9%となっています。
- 65歳以上人口は3,149人であり、高齢化率は28.8%となっています。市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べやや高くなっています。

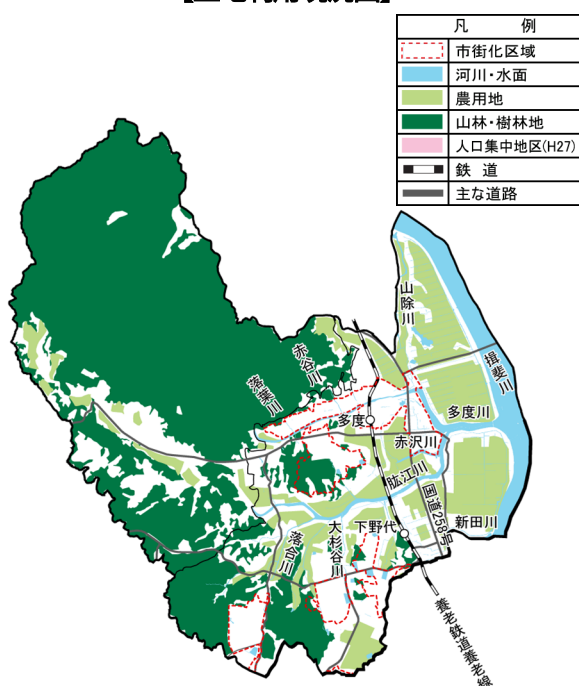
	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
多度中	5,780	2,099	1,508	26.1
多度東	1,179	420	380	32.2
多度南	1,238	430	431	34.8
多度西	812	303	278	34.2
多度北	1,931	848	552	28.6
総計	10,940	4,100	3,149	28.8

平成31年3月31日現在

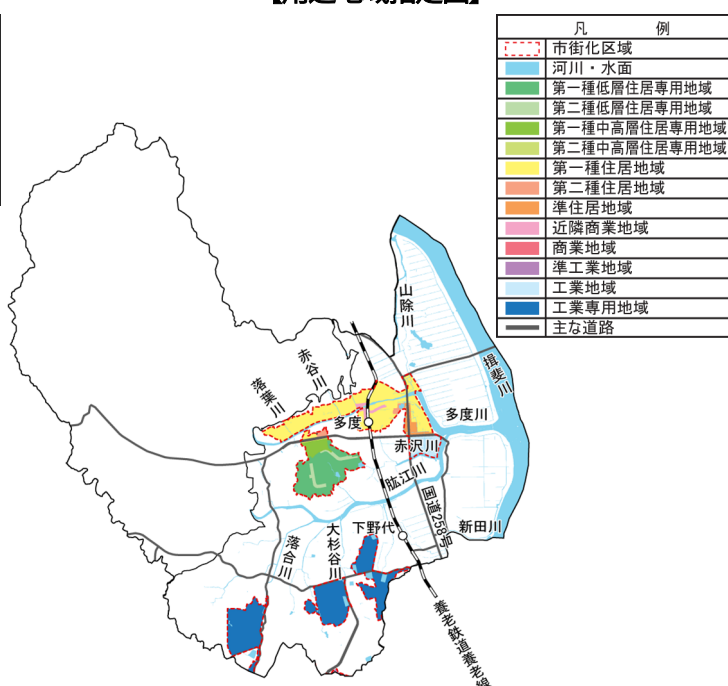
ウ) 土地利用

- 地域の北西部は、大半が山林・樹林地となっており、肱江川および揖斐川沿いは農用地が広がっています。
- 市街化区域における用途指定状況は、多度駅周辺および国道258号沿いに商業系がある以外は住居系となっています。また、地域の南部に工業団地が開発されており、工業系の土地利用がされています。

【土地利用現況図】



【用途地域指定図】



(2) 地域の現状と課題

ア) 自然環境の維持

- 多度地域には、水郷県立自然公園特別地域になっている多度山・多度のイヌナシ自生地をはじめとする豊かな自然が残っており、手軽にハイキングを楽しめる環境が整っています。しかし、松枯れなどにより放置された雑木林・竹林が多く見られ、これらの維持管理が課題となっています。
- のどかな田園風景が残っており、各地には希少な動植物も確認されていますが、一部でサル等の獣害が深刻化しており、農業や生活への影響が懸念されています。
- 地域住民が水に親しみ楽しめる場として河川の手入れをすることが望まれ、特に、多度川の上流部ではホタルの生息が確認されています。

イ) 開発、土砂採取等への対応

- 工場立地・誘致により、税収の増加、雇用の場の創出につながっていますが、開発により生き物の生息環境の喪失が心配されます。
- 企業からの排水は環境基準を満たしているものの、より一層の環境対策への取組みを立地企業へ働きかける必要があります。
- 土砂採取等により緑が減少しているため、植樹などを行い、緑の回復が求められています。

ウ) 道路・交通アクセスの改善

- 工業団地周辺は、今後も立地条件を活かした関連産業のより一層の集積を図る必要があります。そのためにも、新たな道路整備による幹線道路へのアクセス性の向上が課題となっています。
- 肱江川沿いの道路や集落内道路が狭いことから、緊急車両の通行のため道路を拡幅する必要があります。
- 防犯・交通安全の側面から、歩道の設置や街灯の増設、農道の拡幅整備が求められています。

エ) 市街地整備（土地利用、施設配置の検討）

- 社会情勢やまちの将来像の変化を踏まえ、多度地域の中心的拠点である多度駅周辺について、都市計画道路の必要性の検討や駅利用者の利便性の向上に努める必要があります。
- 福祉施設、文化施設等の公共施設との連携による施設の活用を推進し、地域の活性化を図る必要があります。
- 子どもたちの教育環境を整えるため、施設一体型小中一貫校の設置を進めています。
- 計画的整備市街地と生産・物流地域が適切に配置された土地利用を計画する必要があります。
- 防災面については、急傾斜地崩壊危険箇所の対策やゼロメートル地帯の堤防補強などが進められていますが、土砂災害や洪水を未然に防止するため、関係機関と連携を図りつつ、さらなる対応が望まれます。

オ) 観光資源の整備

- 多度大社の参拝客だけでなく、地域の観光に力を入れていく必要があります。
- 内母神社の石取祭や下野代のいもち行事といった祭礼、徳蓮寺や野志里神社など、地域の名所・旧跡の磨き上げとPRが望まれます。

⑧ 長島地域

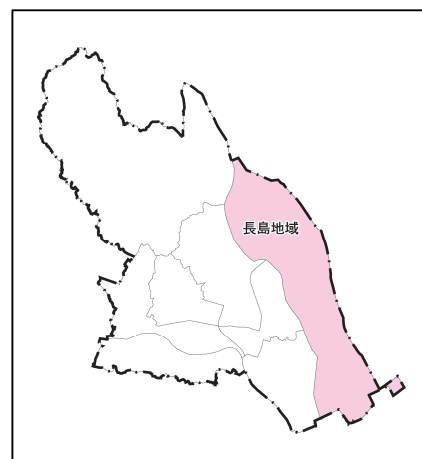
(1) 地域の概況

ア) 位置

- 本地域は、桑名市の東部にあたる損斐・長良川と木曽川との旧長島町の区域に位置しています。
- 木曽川をはさんで木曽岬町および愛知県と接しています。

イ) 人口・世帯数・高齢化率

- 人口は14,898人で、市全体（142,274人／平成31年3月31日）の10.5%、世帯数は6,037世帯で市全体（59,245世帯／平成31年3月31日）の10.2%となります。
- 65歳以上人口は4,336人、高齢化率は29.1%となっており、市全体の高齢化率（26.0%／平成31年3月31日）と比べると高い状況です。



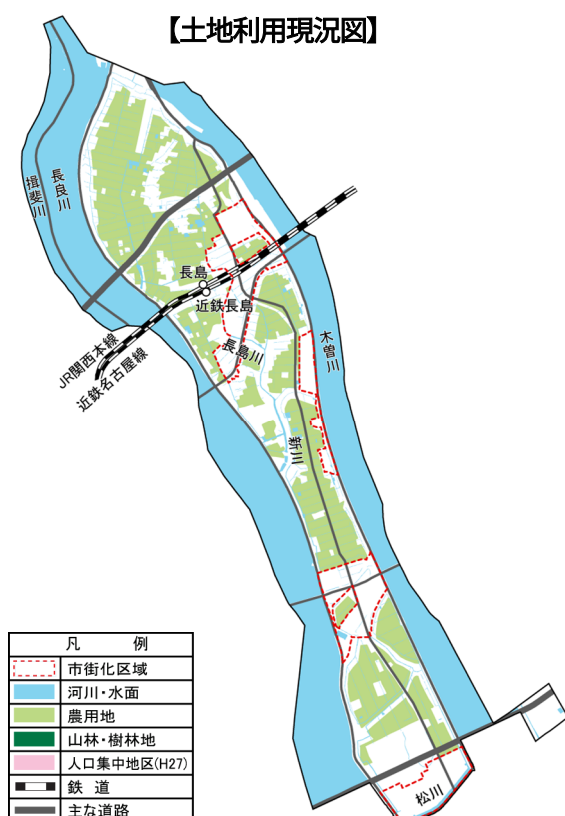
	人口	世帯数	65歳以上人口	高齢化率(%)
長島中部	8,263	3,339	2,317	28.0
長島北部	2,806	1,030	974	34.7
長島伊曾島	3,829	1,668	1,045	27.3
総計	14,898	6,037	4,336	29.1

平成31年3月31日現在

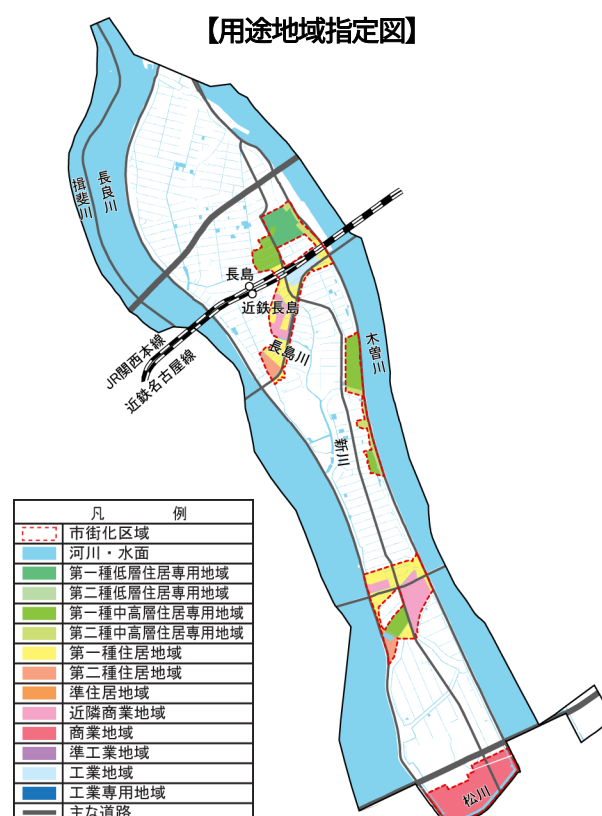
ウ) 土地利用

- 地域内は、市街化区域を除くとほぼ農用地となっています。
- 市街化区域内の用途指定は、国道1号および国道23号沿い、伊勢湾岸道路（新名神高速道路）沿いに商業系用途が指定されており、沿岸部には大規模レジャー施設があります。

【土地利用現況図】



【用途地域指定図】



(2) 地域の現状と課題

ア) 道路・交通対策

- 東名阪自動車道や国道1号など、東西方向の道路交通条件は比較的整っています。橋梁部分や〔都〕西川名四線（県道水郷公園線）、県道桑名海津線の伊勢大橋との交差点部分等では、朝夕の通勤や観光客による交通渋滞が深刻な問題となっています。
- 近鉄長島駅前広場が整備されましたが、利用しやすい表示の設置など改善が必要です。また、JR長島駅前広場の早期整備が望まれています。

イ) 防災対策

- 本地域は、全域が海拔ゼロメートル地帯であり、伊勢湾台風等の水害をはじめとした多くの災害を被っています。また、大地震の発生時には液状化による被害も懸念されており、排水機場の充実や自主防災組織の充実が必要です。

ウ) 田園環境の保全

- 全域が水郷県立自然公園内にあり、長良川や木曽川の雄大な水辺の自然環境が形成され、水屋等の輪中地帯特有の景観が残る田園風景が美しい地域となっています。
- せせらぎ水路の整備や長島川遊歩道の整備等によりうるおいある水辺環境が形成されていますが、不法投棄の問題、河川・水路の悪臭対策や水質浄化の課題があります。
- 農業については、都市近郊型農業地帯として稲作をはじめ、ブランド性のある付加価値の高い農産物が生産されている一方で、将来的な休耕田の増加に対する懸念や中高層マンション建設等に伴い、豊かな田園景観が喪失してしまうことが懸念されます。

エ) 暮らしの環境整備

- 「ながしま遊館」が整備されるなど子どものための生活関連施設の充実は図られていますが、身近に利用できる遊び場や児童館等の施設整備が必要です。
- 本地域には、総合病院がなく周辺地域や市外の病院を利用しているため、公共交通機関の充実など自家用車に頼らない環境が望まれています。
- 長良川や木曽川においては、水上バイクなどマリンスポーツが盛んですが、利用者によるごみの投棄が見られ、誰もが安全、快適に利用できるような改善が必要です。

オ) 地域の一体感、コミュニティの形成

- 本地域は、集落や耕地を洪水から守るためにその全体を囲むように作られた輪中堤によって強く結ばれた共同体がつくられてきた歴史もあり、お互いに助け合う地域性や温かな人情が残っている一方で、自治会が入り込みあっているなど、自治会・コミュニティの再編が求められている地域もあります。

カ) 観光の振興

- 本地域には、大規模レジャー施設が集積しているほか、輪中の歴史等が学べる輪中の郷、芭蕉ゆかりの地である大智院や一向一揆の長島六坊、長島三町石取祭、八幡神社獅子舞など、歴史的・文化的資源に恵まれています。また、長島川付近には、又木茶屋や長島水辺のやすらぎパーク等が整備されています。
- 大規模レジャー施設と歴史的・文化的な価値のある地域資源との結びつきが希薄であるため、地域全体に観光による波及効果が広がっていません。

キ) 新たな産業誘致等による地域活性化

- 広域交通網が充実しているなど、新たな産業誘致において優位な立地条件にありますが、地盤が軟弱であることなどから小規模工場が点在するにとどまっています。このため、軟弱な地盤などに配慮し、企業誘致を図ることが課題となっています。
- 商業については、名古屋駅からも近く、また近隣地域において大型商業施設の集積が進んでいることもあり地元商業の衰退が見られます。